

ことわざ  
新聞入り

満点ゲットシリーズ

100



ちびまる子ちゃんの

# ことわざ 教室

キャラクター原作／  
さくらももこ

監修／  
島村直己  
国立国語研究所室長

花より団子



満点ゲットシリーズ

ことわざ  
新聞入り

ちびまる子ちゃんの

# ことわざ 教室

キャラクター原作／  
さくらももこ

監修／島村直己  
国立国語研究所室長





満点ゲットシリーズ  
ちびまる子ちゃんのことわざ教室

2000年10月25日 第1刷発行  
2011年6月6日 第37刷発行

- キャラクター原作／さくらももこ
- 監修／島村直己
- 指導／間中孝貴(東京学芸大学附属世田谷小学校 元副校長)
- ちびまる子ちゃんまんが／小泉晃子、倉沢美紀
- まんが原案／フルスタッフ(今村恵子)
- 編集協力／(株)冬陽社(岡村洋、石田優子、小島伸子)
- カバー表紙イラスト／小泉晃子
- 本文カット／堀井徹、つなん京助、熊丸栄一郎
- カバーデザイン／ZOO(曾根陽子)
- 本文デザイン／クリエイティブ・アート・テクニクス(市原真佐子)  
新藤恵璃子
- 写植／昭和ブライ特写部

発行人 太田富雄

発行所 株式会社 集英社

〒101-8050 東京都千代田区一ツ橋2丁目5番10号

電話 東京 03-3230-6024(編集)

03-3230-6393(販売)

03-3230-6080(読者係)

印刷製本所 大日本印刷株式会社

造本には十分注意しておりますが、乱丁・落丁(本のページ順序の間違いや抜け落ち)の場合はお取り替え致します。購入された書店名を明記して小社読者係宛にお送りください。送料は小社負担でお取り替え致します。但し、古書店で購入されたものについてはお取り替えできません。

本書の一部または全部を無断で複写、複製することは、法律で認められた場合を除き、著作権の侵害となります。また、業者など、読者本人以外による本書のデジタル化は、いかなる場合でも一切認められませんのでご注意下さい。

©Sakura Production 2000

©SHUEISHA 2000

Printed in Japan

# もくじ

あ

◇この本に出てくる人たち ..... 2

◇みんなもことわざ博士になろう ..... 10

頭隠して尻隠さず

後は野となれ山となれ

蛇蜂どらず

雨垂れ石をうがつ

雨降つて地固まる

案するより産むが易し

石の上にも三年

石橋をたたいて渡る

医者の不養生

20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10

まる子も、ことわざを  
おぼえてかしこい子に  
なるんじやよ



急がば回れ

一寸の虫にも五分の魂

犬も歩けば棒に当たる

命あつての物种

井の中の蛙大海を知らず

魚心あれば水心

嘘も方便

うどの大木

鶴のまねをする鳥

馬の耳に念佛

海老で鯛を釣る

31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21

かわいさ余つて憎さ百倍

聞いて極楽見て地獄

聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥

## ◆早口ことば新聞

## ◆回文新聞

雉も鳴かずばうたれまい

窮すれば通ず

腐つても鯛

口は禍の門

苦しいどきの神頼み

君子危うきに近寄らず

芸は身を助ける

怪我の功名

後悔先に立たず

孝行のしたい時分に親はなし

弘法にも筆の誤り

## 力

縁の下の力持ち

負うた子に教えられる

鬼に金棒

鬼の目にも涙

帶に短したすきに長し

おぼれる者はわらをもつかむ

親の心子知らず

飼い犬に手をかまれる

蛙の面に水

稼ぐに追いく貧乏なし

勝つて兜の緒を締めよ

河童の川流れ

壁に耳あり障子に目あり

亀の甲より年の劫

枯れ木も山のにぎわい

51

50

49

48

47

46

45

44

43

42

41

40

39

38

37

36

32

# さ

転ばぬ先の杖	さきづえ	71
紺屋の白袴	しらばこ	72
猿も木から落ちる	さるも木から落ちる	73
触らぬ神に祟りなし	さわぬ神に祟りなし	74
山椒は小粒でもびりりと辛い	さんしょうはこつぶでもびりりと辛い	75
三人寄れば文殊の知恵	さんじんよれば文殊の知恵	76
鹿をおう者は山を見ず	しかをおう者は山を見ず	77
親しき仲にも礼儀あり	しやかに説法	78
袖すりあうも多生の縁	そですりあうも多生の縁	79
備えあれば憂いなし	そなえあれば憂いなし	80
揖すして得取る	いそくして得取る	81
大山鳴動して鼠一匹	だいさんめいどうしてねずみ一匹	82
大は小を兼ねる	だいはしこをせまねる	83
宝の持ち腐れ	たからもの持ち腐れ	84
立つ鳥跡を濁さず	たてくとりあとをなきさず	85
食べる虫も好き好き	たなくむしも好き好き	86
棚から牡丹餅	たなからぼたんもち	87
好きなこそ物の上手なれ	しゅうじゆが仏	88
朱に交われば赤くなる	しゆにまじわればあかくなる	89
十人十色	じゆじゆにんといいろ	90
知らぬが仏	しらぬがぼつ	91
過ぎたるはなお及ばざるが如し	すぎたるはなお及ばざるが如し	92
雀百まで踊り忘れず	すずめひゃくまでおどり忘れず	93
急いては事を仕損じる	いそいではことをしおぼじる	94

# た

背に腹はかえられぬ	せなかはかえられぬ	91
船頭多くして船山に上る	ふなやまのほ	92
善は急げ	ぜんじきげ	93
千里の道も一步から	せんりのみちいつぽ	94
袖すりあうも多生の縁	そですりあうもたしろのえん	95
備えあれば憂いなし	そなえあれば憂いなし	96
揖すして得取る	いそくして得取る	97
大山鳴動して鼠一匹	だいさんめいどうしてねずみ一匹	98
大は小を兼ねる	だいはしこをせまねる	99
宝の持ち腐れ	たからもの持ち腐れ	100
立つ鳥跡を濁さず	たてくとりあとをなきさず	101
食べる虫も好き好き	たなくむしも好き好き	102
棚から牡丹餅	たなからぼたんもち	103
好きなこそ物の上手なれ	しゅうじゆが仏	104
朱に交われば赤くなる	しゆにまじわればあかくなる	105
十人十色	じゆじゆにんといいろ	106
知らぬが仏	しらぬがぼつ	107
過ぎたるはなお及ばざるが如し	すぎたるはなお及ばざるが如し	108
雀百まで踊り忘れず	すずめひゃくまでおどり忘れず	109

## ◆ことわざ新聞 No.2 夏

## ◆絵文字新聞

忠言耳に逆らう

提灯に釣鐘

塵も積もれば山となる

月とすつぽん

月夜に提灯

釣り落とした魚は大きい

鶴の一声

出る杭は打たれる

灯台下暗し



118 117 116 115 114 113 112 111

## な

遠くの親類より近くの他人  
時は金なり

所変われば品変わる

隣の花は赤い

とらぬ狸の皮算用

虎の威を借る狐

泥棒をとらえて縄をなつ

団栗の背比べ

飛んで火に入る夏の虫

ことわざ新聞 No.3

秋

## な

ない袖は振れぬ

長い物には巻かれる

泣きう面に蜂

なくて七癖

情けは人のためならず

七転び八起き

急け者の節句働き

138 137 136 135 134 133 132 128 127 126 125 124 123 122 121 120 119

# は

習うより慣れろ。  
二階から目薬(天井から目薬)。  
憎まれつ子世にはばかる。  
二度あることは三度ある。  
二兎を追う者は一兎をも得ず。

157 156 154 152 151 150 149 148 147 146 145 144 143 142 141 140 139

# ま

早起きは三文の得。  
針の穴から天をのぞく。  
必要は発明の母。  
人の噂も七十五日。  
人のふり見てわがふり直せ。  
火に油を注ぐ。  
火のない所に煙は立たぬ。  
百聞は一見にしかず。  
瓢箪から駒(が出る)。  
豚に真珠。  
下手な鉄砲も數うてば当たる。  
下手の横好き。  
蛇に見こまれた蛙。  
仏つくつて魂入れず。  
仏の顔も三度。  
まかぬ種は生えぬ。  
負けるが勝ち。

◆いろはカルタ新聞 2 1

花より団子。  
話し上手は聞き上手。  
話題はカルタ新聞。

174 173 172 171 170 169 168 167 166 165 164 163 162 161 160 159 158

待てば海路の日和あり

◆ことわざ新聞

冬

ミイラ取りがミイラになる

身から出た錆

三つ子の魂百まで

昔取つた杵柄

無理が通れば道理引っこむ

目から鼻へ抜ける

目の上のたんこぶ

餅は餅屋

物も言ひようで角が立つ

門前の小僧習わぬ経を読む

焼け石に水

安物買いの銭失い

油断大敵

弱り目に祟り目

194 193 192 191 190 189 188 187 186 185 184 183 182 181 180 176 175

ら

樂あれば苦あり

良薬は口に苦し

論語読みの論語知らず

論より証拠

禍を転じて福となす

渡る世間に鬼はない

笑う門には福来たる

◆なぞなぞ新聞

204 202 201 200 199 198 197 196 195



\*この本には、ことわざの他に故事成語や慣用句も一部、のっています。

満点ゲットシリーズ

ことわざ  
新聞入り

ちびまる子ちゃんの

# ことわざ 教室

キャラクター原作／  
さくらももこ

監修／島村直己  
国立国語研究所室長

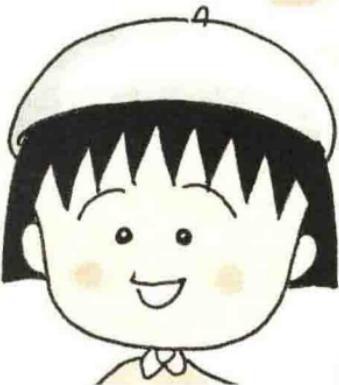


泣きつ面に蜂

# ほん この本に で 出てくる ひと 人たち



まる子のいち  
ばんの味方で  
なかよし。



たまちゃん  
まる子の親友。

山根くん  
胃腸が弱い。



ブー太郎  
「ブー」と  
いうのが  
口くせ。



藤木くん 永沢くん



小杉くん  
クラスの男子。



開口くん  
クラスの男子。



長山くん  
とてもやさしい男の子。



冬田さん  
クラスの女子。  
大野くんを好き。



かよちゃん  
杉山くんを好き。



杉山くん  
大野くん  
ふたりは親友。



城ヶ崎さん  
美人なので  
みぎわさんに  
意地悪されてる。



笹山さん  
藤木に  
好かれている。



前田さん  
そうじ係。  
カツとすると、  
泣く。



野口さん  
お笑い好きな  
くらい少女。



花輪くん  
大金持ちのむすこ。



みぎわさん  
花輪くんにお熱。



はまじ  
クラス  
の男子。



たかしくん  
クラスの男子。  
犬を飼っている。



川田さん  
佐々木のじいさんの  
友だち。



ヒデじい  
花輪くんち  
の運転手。  
みんなから  
好かれて  
いる。



みどりちゃん  
おじいちゃんの  
知り合いの孫娘。  
藤木を好き。



まる尾君  
「ズバリ」が  
口ぐせ。



のくじ  
野口さんの  
おじいちゃん  
お笑い好き。



30年間  
町に木を  
植えつづ  
けている。



根岸  
お姉ちゃんのクラスの男子。



小山くん



よし子さん  
お姉ちゃんの親友。  
小山くんを好き。



みまつやのおやじ



まる尾君の  
お母さん



小杉くんの  
お母さん



たまちゃんの  
両親



# もくじ

あ

まる子も、ことわざを  
おぼえてかしこい子に  
なるんじやよ



◇この本に出てくる人たち··· 2

◇みんなもことわざ博士になろう··· 10

頭隠して尻隠さず···

後は野となれ山となれ···

蛇蜂とらず···

雨垂れ石をうがつ···

雨降つて地固まる···

案するより産むが易し···

石の上にも三年···

石橋をたいて渡る···

医者の不養生···

急がば回れ···

一寸の虫にも五分の魂···

犬も歩けば棒に当たる···

命あつての物种···

井の中の蛙大海を知らず···

魚心あれば水心···

嘘も方便···

うどの大木···

鶴のまねをする鳥···

馬の耳に念佛···

海老で鯛を釣る···

縁の下の力持ち

かわいき余つて憎さ百倍

負うた子に教えられる

聞いて極楽見て地獄

鬼に金棒

聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥

鬼の目にも涙

かわいき余つて憎さ百倍

帶に短したすきに長し

かわいき余つて憎さ百倍

おぼれる者はわらをもつかむ

かわいき余つて憎さ百倍

親の心子知らず

かわいき余つて憎さ百倍

飼い犬に手をかまれる

かわいき余つて憎さ百倍

蛙の面に水

かわいき余つて憎さ百倍

稼ぐに追いつく貧乏なし

かわいき余つて憎さ百倍

勝つて兜の緒を締めよ

かわいき余つて憎さ百倍

河童の川流れ

かわいき余つて憎さ百倍

壁に耳あり障子に目あり

かわいき余つて憎さ百倍

亀の甲より年の劫

かわいき余つて憎さ百倍

枯れ木も山のにぎわい

かわいき余つて憎さ百倍

# か

## ◆早口ことば新聞 回文新聞

雉も鳴かずばうたれまい

かわいき余つて憎さ百倍

窮すれば通ず

かわいき余つて憎さ百倍

腐つても鯛

かわいき余つて憎さ百倍

口は禍の門

かわいき余つて憎さ百倍

苦しいどきの神頼み

かわいき余つて憎さ百倍

君子危うきに近寄らズ

かわいき余つて憎さ百倍

芸は身を助ける

かわいき余つて憎さ百倍

怪我の功名

かわいき余つて憎さ百倍

後悔先に立たず

かわいき余つて憎さ百倍

孝行のしたい時分に親はなし

かわいき余つて憎さ百倍

弘法にも筆の誤り

かわいき余つて憎さ百倍

# さ

転ばぬ先の杖	さわらぬ神に祟りなし	猿も木から落ちる	紺屋の白袴
山椒は小粒でもびりりと辛い	三人寄れば文殊の知恵	鹿をおう者は山を見ず	触らぬ神に祟りなし
親しき仲にも礼儀あり	駆迦に説法	鹿をおう者は山を見ず	猿も木から落ちる
朱に交われば赤くなる	朱に交われば赤くなる	親しき仲にも礼儀あり	山椒は小粒でもびりりと辛い
十人十色	十人十色	駆迦に説法	親しき仲にも礼儀あり
知らぬが仏	知らぬが仏	朱に交われば赤くなる	朱に交われば赤くなる
好きこそ物の上手なれ	好きこそ物の上手なれ	十人十色	十人十色
過ぎたるはなお及ばざるが如し	過ぎたるはなお及ばざるが如し	知らぬが仏	知らぬが仏
雀百まで踊り忘れず	雀百まで踊り忘れず	好きこそ物の上手なれ	好きこそ物の上手なれ
急いては事を仕損じる	急いては事を仕損じる	過ぎたるはなお及ばざるが如し	過ぎたるはなお及ばざるが如し

# た

背に腹はかえられぬ	千里の道も一步から	船頭多くして船山に上る	せんぜん
袖すりあうも多生の縁	袖えあれば憂いなし	袖えあれば憂いなし	せんせん
損して得取る	損して得取る	損して得取る	せんせん
大山鳴動して鼠一匹	大山鳴動して鼠一匹	大山鳴動して鼠一匹	せんせん
大は小を兼ねる	大は小を兼ねる	大は小を兼ねる	せんせん
宝の持ち腐れ	宝の持ち腐れ	宝の持ち腐れ	せんせん
立つ鳥跡を濁さず	立つ鳥跡を濁さず	立つ鳥跡を濁さず	せんせん
夢食う虫も好き好き	夢食う虫も好き好き	夢食う虫も好き好き	せんせん
棚から牡丹餅	棚から牡丹餅	夢食う虫も好き好き	せんせん
◆絵文字新聞	◆絵文字新聞	◆絵文字新聞	◆絵文字新聞

109 108 106 104 103 102 101 100 99 98 97 96 95 94 93 92 91



忠言耳に逆らう  
ちやげんみみさか  
提灯に釣鐘  
ちあらんつりがね  
塵も積もれば山となる  
ぢりよわとうさんとなる  
月夜に提灯  
つきよひとうらん  
釣り落とした魚は大きい  
つりおとしたうなおお  
鶴の一聲  
つるひとこゑ  
出る杭は打たれる  
でくいとうら  
灯台下暗し  
とうだいもとくら

118 117 116 115 114 113 112 111 110

# な

遠くの親類より近くの他人  
とおしんるいちかにん  
所変われば品変わる  
ところかしなか  
時は金なり  
となりはなあか  
隣の花は赤い  
となりはなあか  
とらぬ狸の皮算用  
とらぬたぬきかわざんよう  
虎の威を借る狐  
とらむぎをさるきぬ  
泥棒をどらえて縄をなう  
どろぼうのなわ  
団栗の背比べ  
どんぐりせいくらべ  
飛んで火に入る夏の虫  
とひいなつむし

◆ことわざ新聞 No.3 秋

ない袖は振れぬ  
そてふふ  
長い物には巻かれろ  
ながものまきまき  
泣きつ面に蜂  
ながははち  
なくて七癖  
ながなくせ  
情けは人のためならず  
なさ  
七転び八起き  
ななころやお  
急げ者の節句働き  
なまものせつくばら

# は

習うより慣れろ。	ならな
二階から目薬(天井から目薬)。	にかいめぐすりてんじょうからめぐすり
憎まれつ子世にはばかる。	にくこよにはばかる
二度あることは三度ある。	にどさんどあることはさんどある
二兎を追う者は一兎をも得ず。	にとおとものいつとえ
濡れ手で粟。	ぬれてあわ
濡れぬ先の傘。	ぬれぬさきのかさ
猫に鰯節。	ねこのかわび
猫に小判。	ねこにこばん
能ある鷹は爪を隠す。	のうたかはつめかく
喉もど過ぎれば熱さを忘れる。	のどあつすぎればあつさをわすれる
暖簾に腕押し。	のれんうでお
話し上手は聞き上手。	はなしじょうしはきじょうし
花より団子。	はなよりだんご

## ◆ いろはカルタ新聞 2 1

早起きは三文の得。	はやお起きはさんもんのとく
針の穴から天をのぞく。	はりあなてんをのぞく
必要は発明の母。	ひつようははつめいのぼ
人の噂も七十五日。	ひとうさきしち十九
人のふり見てわがふり直せ。	ひとみみてわがみただせ
火に油を注ぐ。	ひあぶらを注ぐ
火のない所に煙は立たぬ。	ひのないところにけむりたたぬ
百聞は一見にしかず。	ひゃくきんはいつけん
瓢箪から駒(が出る)。	ひょうたんこまく(がでる)
豚に真珠。	ぶたにしんじゅ
下手な鉄砲も數うてば当たる。	へたてつぱうもかずうてばあたる
下手の横好き。	へたのよこすき
蛇に見こまれた蛙。	へびにみこまれたかえる
仏つくつて魂入れず。	ほとけつくつてたまはりはず
仏の顔も三度。	ほとけのかほさんど
まかぬ種は生えぬ。	まかぬたねはは
負けるが勝ち。	まかうのが勝ち